

学年	教科	科目	教科書名
中3	国語	国語	新しい国語3 (東京書籍) 現代の書写 一, 二, 三 (三省堂)

1. 授業のねらい

- ・国語の基礎として、漢字・語彙・文法・修辞表現や用語などの知識を身につけます。
- ・さまざまな文章の読解や授業での取り組みを通して、「読む・書く・話す・聞く」能力を養います。
- ・RST（リーディング・スキル・テスト）を受け、現時点での文章読解力を確認して今後の学習につなげます。
- ・『しっかり読解 読みトレ』を活用し文章読解力を向上させ、全教科に通ずる日本語を正確に読む能力を養います。
- ・文章構造など表現の基礎を学ぶとともに論理的に考え、説得力のある表現能力を養います。
- ・「聞き書き」作業（ディクテーション）を通じて国語力の向上を図ります。
- ・ことわざに慣れ親しみ、物の見方考え方を身につけ、表現に活用できる能力を養います。

2. 授業のすすめ方

- ・教科書の本文を中心に、資料集やデジタル教材などを適宜利用し、発問を交えながら授業を行います。
- ・授業開始5分間程度、漢字練習や語彙習得の時間を設け、漢字や語彙の定着を図ります。
- ・各単元や定期考査などで、自分で表現を添削しながら40字作文を書く作業を行います。
- ・文章読解力、ことわざ、聞き書き（ディクテーション）能力を向上させるトレーニングを適宜実施します。
- ・入試過去問題などを教材にして国語演習を実施します。

3. 学習上の留意点

- ・授業中に黒板に書かれたことだけでなく、興味を持った言葉や考えをノートに記録することを心がけてください。
- ・国語小テストを実施するので、計画的に準備して試験に臨んでください（平常点として評価されます）。
- ・授業で学習した部分は何度も正確に音読して、意味のわからないところは辞書で調べておきましょう。
- ・平素から様々なことを鵜呑みにせず、自分の考えの前提や根拠などを説明できるように意識していきましょう。
- ・漢字練習ノート、小テストを通じて、漢字に関する力をつけていきましょう。

4. 副教材・参考文献

- ・『新・国語の便覧』（正進社） ※ 授業・予習・復習・発展学習に使用。（3年間使用）
- ・『解いて覚える中学生の文法』（とうほう） ※ 授業・予習・復習・小テストに使用。（3年間使用）
- ・『3回書き込み式標準漢字演習』（とうほう） ※ 小テストの出題範囲として使用。・漢字検定対策（3年間使用）
- ・漢字練習ノート ※ 授業・自習用に使用。1冊終了後はプリントシートで継続。
- ・『しっかり読解 読みトレ』 ※ 授業・自習用に使用。
- ・長期休暇の課題。（予定）
- ・必要に応じて各種プリント並びにデジタル教材を配布します。

5. 評価の視点・テスト・課題等

- ・スタディサプリなどで確認した知識も定期考査に反映させた上で評価に組み込みます。
- ・定期考査、小テストから客観的に評価し、そこに平常点が組み込まれます。
- ・漢字小テスト（上記副教材参照）は平常点に換算して評価に組み入れます。
- ・漢字練習ノートの提出及び達成度は平常点に反映されます。
- ・ロイロノートやClassiで課した宿題等も平常点に反映されます。

6. 定期考査

- ・教科書ならびに副教材を使用して学習した授業の内容を中心に出题します。
- ・試験に際しては、教科書の説明で使用したプリントや資料集、デジタルコンテンツなどについても学習して下さい。
- ・定期考査に文法、クリティカル・シンキング、ディクテーション、作文の出题があります。

〈出題分野〉

- 1学期中間考査… 韻文・説明的文章・文法・漢字・語句・文章表現
- 1学期期末考査… 小説・説明的文章・文法・漢字・語句・文章表現
- 2学期中間考査… 古典・説明的文章・文法・漢字・語句・文章表現
- 2学期期末考査… 古典・韻文・小説・文法・漢字・語句・文章表現
- 学年末考査 … 説明的文章・韻文・文法・漢字・語句・文章表現

※状況によって変動がある場合があります。

7. 授業計画

期	月	単元名・学習項目	評価方法	到達目標
一学期	4	1 言葉を磨く 〈詩（巻頭詩）〉 〈言語感覚〉 〈詩歌創作〉 〈日本語探検 和語・漢語・外来語〉	小テスト 提出物 デジタルコンテンツ 定期考査 漢字練習ノート 適宜CBTによる漢検受験を推奨する	1 ・詩に込められた意味や効果的な表現を捉える。 ・対比的な表現などに注意して、筆者の主張を捉える。 ・俳句という形式の特徴を理解し、その句のよさを評価する。 ・和語・漢語・外来語の区別や、特徴について理解する。 ・敬語の種類に注意し、正しい敬語の使い方を理解する。 2 ・人物像や場面展開、表現の仕方の工夫や魅力を評価する。 ・さまざまな観点から評価しながらスピーチを聞く。 ・連語や慣用句について理解する。 ・二字熟語と三字熟語の構成や、熟字訓について理解する。 3 ・文章を三つに分け、論の進め方を捉え自分の意見を持つ。 ・論理的に読むための三つの関係を理解する。 ・体験と知識を関連づけ、素材を探して表現に生かす。 ・調べたことや体験を工夫して人に伝えるように書く。 ・四字熟語を知り、数字を含むものや故事成語も理解する。 ・読んだ本を紹介し、知識を広げ、自分の考えを深める。
	5	2 作品を論じる 〈文学一〉 〈話す・聞く〉 〈日本語探検 間違えやすい敬語〉		
	6	〈漢字道場 熟語の構成・熟字訓〉 3 文章の展開を考える 〈構成・展開〉 〈伝達〉 〈漢字道場 四字熟語〉 〈日本語探検 連語・慣用句〉		
	7	〈読書〉		
二学期	9	4 多面的に検討する 〈吟味・判断〉 〈論証・説得〉 〈話す・聞く〉 〈文法の窓 曖昧な文・分かりづらい文〉	小テスト 提出物 デジタルコンテンツ 定期考査 漢字練習ノート	4 ・文章を読み比べ、共通点や相違点を見つけ、評価する。 ・比較の観点や、比較の対象を的確に挙げる。 ・対象の特徴を分析、比較し、自分なりの判断を下す。 ・説明の目的や相手に応じて、情報の過不足を指摘する。 ・目的や相手、時間に応じて聞き手に分かりやすく話す。 ・文の意味の曖昧さを回避する手立てを理解する。 ・活用の有無で送り仮名の付け方の原則と例外を理解する。 ・七五調文語詩の特徴を捉え、リズムを感じ取り朗読する。 5 ・和歌や紀行文の歴史的背景、込められた意味を捉える。 ・座右の銘としたい古典を引用し、自分の考えを書く。 ・音声の変化、文法の変化、語彙の変化などを理解する。 ・文節や単語、品詞や活用形などについて熟知する。 6 ・場面展開と個々の人物の特徴や人間関係の変化を捉える。 ・人物の関係の変化を捉え、変化の理由や背景を分析する。 ・形や音の似た漢字など、紛らわしい漢字を識別する。 ・読んできた本を振り返り、今後の読書の仕方を考える。 ・身の回りの文字に関心を持ち、効果的に書く。
	10	〈漢字道場 送り仮名〉 〈詩（日本語のしらべ）〉		
	11	5 伝統文化を受け継ぐ 〈古文〉和歌・紀行文 〈漢文〉論語 〈漢字道場 他教科で学ぶ漢字〉		
	12	6 関係を読む 〈文学二〉 〈漢字道場 紛らわしい漢字〉 〈読書〉 〈毛筆 楷書・行書〉		
三学期	1	毛筆 書き初め展 7 思いを馳せる 〈言葉とメディア〉 〈話す・聞く〉	小テスト 提出物 デジタルコンテンツ 定期考査 漢字練習ノート	7 ・書写展書き初め提出 ・災害時の情報の価値やメディアの役割などを理解する。 ・対立意見の各々の長所を見つけ、新しい案を生み出す。 ・異なる意見に対し、問題解決のために互いを生かし合う。 ・中学校生活や将来について自分の思いを手紙にまとめる。 ・読むときや書くときに間違えやすい言葉を熟知する。 ・詩を読んで、感じたことなどを自分の言葉でまとめる。 ・小説を通して人間や社会について考えたことをまとめる。
	2	〈感性・想像〉 〈漢字道場 間違えやすい言葉〉 〈詩（詩の言葉）〉		
	3	〈読書〉		

※状況によって変動がある場合があります。